

## 国際ビジネスファイナンス研究会報告書について

本報告書は「国際ビジネスファイナンス研究会」における研究・議論内容を報告するものである。本報告書には12編の報告書を掲載した。現在国際ビジネスファイナンス研究会には30名弱が参加をしている。毎回の研究会では報告者が発表した内容に対して、出席者による活発な議論が行われている。各報告書にはそういった議論の結果が反映されており、そういう意味では本報告書は研究会の参加者全員の成果と言ってもよいであろう。本研究会の成果が国際ビジネスファイナンス研究の更なる発展に寄与できれば幸いである。

報告書は「理論編」「ケーススタディ編」「エネルギー編」の3部で構成される。

「理論編」にはファイナンス分野の学術的な報告書を4編掲載した。上村報告書「日本企業における多国籍度とシステムティックリスクの関係」は日本の製造業のシステムティックリスク（株主資本コスト）と多国籍度の実証分析している。久保田報告書「日本企業の為替リスク管理（上）」は外国為替市場に関する先行研究をサーベイし、今後の研究課題について重要な提言を行っている。清水報告書「不動産バブルは繰り返すのか？」は近年における金融緩和・マイナス金利政策が不動産市場に与える影響について、過去に起きたバブルの経験を踏まえた議論を行っており、時宜を得た重要な報告書となっている。中井報告書「クレジット・デフォルト・スワップと債権貸倒れ」は2008年金融危機を引き起こした要因の一つと言われているクレジット・デフォルト・スワップと呼ばれる金融技術について議論を行っている。

「ケーススタディ編」には事例研究を5編掲載した。松本報告書「日本企業における海外市場への重複上場の状況と意義」は日本企業が海外市場に重複上場することの意義が薄れつつあることを、さまざまな事例とデータを用いて示している。大串報告書「広告会社のASEANにおける新たなビジネスモデル構築へのチャレンジ」は通販事業の海外展開について自らの経験を踏まえた解説を行っている貴重な報告である。駒形報告書「韓国の自動車産業と現代自動車グループについて」は韓国の最大手自動車メーカーである現代自動車グループについて詳しい事例研究を行っている。濱井報告書「株式会社クラレの経営戦略について」は著者の所属企業である株式会社クラレの今後の方向性について、財務分析等を踏まえた提言を行っている。日暮報告書「EBOモデルによる株式相場評価の実際」はEdward, Bell, OhlsonによるEBOモデルと呼ばれる株価評価モデルを解説し、そのモデルの有効性を最近の日経平均株価のデータを用いて実証している。

「エネルギー編」には3編の報告書を掲載した。西脇報告書「再生可能エネルギーの課題と展望」は日本における再生エネルギー普及に関する課題を整理し、今後の方向性について提言を行っている。西廣報告書「エネルギーミックスに関する一考察」は今後のエネルギー

ミックス（電源構成）について、歴史的経緯やこれまでの議論を整理しながら展望を行っている。特にポスト福島のあり方について貴重な提言を行っている。高橋報告書「米国の石油・天然ガス企業の最近の経営状況」はいわゆるシェール革命後の米国の石油・ガス企業の経営状況を、膨大な資料とデータに基づいて分析した力作である。

本報告書の作成には麗澤大学経済社会総合研究センターからの助成を受けた。ここに記して関係各位に感謝する。

2016年7月 上村昌司